

27 【街の散策からの気づき発見】

江戸川散策4「宝珠花神社」と「大王寺」

会員 K.T.

江戸川散策を続けている。宝珠花橋の西宝珠花側の近くに宝珠花神社がある。宝珠花神社は明治40年(1907)に浅間社、香取社、八雲社を合祀して社号を宝珠花神社と改称したと伝えられている。

創立年代は不詳である。境内の看板には、こう記されている。「江戸川は、江戸時代の寛永年間(1624~1644年)に、下総台地を切り開いてつくられた人工の河川である。この江戸川の開削によって、中世以降の宝珠花郷は、東西に分断され、西宝珠村が誕生した。江戸川の舟運により、西宝珠花は河岸場としてにぎわいをみせた。明治時代になると、蒸気船による貨客輸送が開始され、河岸場の周辺には、酒屋、料理店、旅館、呉服問屋などが建ち並び、江戸川流域でも有数の寄航地として繁栄した。

その後、昭和22年(1947)に発生したカスリーン台風の被害により、江戸川堤防の改修工事が計画され、村の大部分が移転の対象となった。この大規模な移転事業は昭和26年に始まり、昭和28年(1953)に完了した。移転には、「曳家」という手法が用いられ、250戸の住宅や役場、学校、寺社などの多くが、そのままの状態に移転した。こうして西宝珠花の町並みは、現在の地へと移った。

平成30年(2018)3月 春日部市教育委員会」

寛永年間の江戸川の開削は、利根川東遷事業の一貫の中で行われたといわれる。利根川東遷事業は、江戸時代(1603~1868)初期、約60年間かけて利根川の江戸湾への流路を銚子沖の太平洋へ瀬替えした河川工事事業で、現在の関東の骨格をつくった、といわれている。利根川の流路変更は、東関東と西関東を舟運によって江戸の経済圏に結ぶことを目的としたらしい。結果として、利根川の瀬替えは、関東平野中央部に広大な氾濫湿地帯の新田開拓をもたらした。庄和地区の新田開発も進んだ、という。宝珠花神社の境内には富士塚がある。天保4年(1833)に西宝珠花の村人が富士登山121回を記念して奉納した「三國第一山」の扁額が残されている。江戸時代、この地域のコミュニティは豊かな文化を持っていたに違いない。扁額は春日部市指定有形文化財になっている。宝珠花神社から50mほど江戸川下流の堤防のすぐ傍に「大王寺」(春日部市西宝珠花88)がある。この寺は立地が江戸川から離れていたため、移転対象外となり、昭和の江戸川改修後も、現在の地にあり、移転前の歴史が残る寺ではあるが、いろいろと変遷はしている。寺の入門口付近に、由来が記されている。

「大王寺は、真言宗豊山に属し、本尊は金剛界大日如来である。創立は、昭和30年(1955)8月旧西宝珠花宝蔵寺と旧西親野井観音寺の併合によるものである。(中略)

現本堂は、旧宝蔵寺のもので、寛政3年(1691)の創建である。また、旧観音寺不動堂(西親野井四五番地)には、南北朝時代(1336~1392)の俱利伽羅不動と胎蔵界大日を刻む高さ1.2メートルの板石塔婆がある。これは修験道系板石塔婆の代表的なもので、県指定文化財となっている。昭和六十一年三月 春日部市」

大王寺の所在地は、平成17年(2005)10月1日の春日部市と庄和町の合併で庄和町から春日部市に移籍された。昭和28年(1953)の移転で、西宝珠花の街は、この寺の地点を境に東側の江戸川沿いの街並みは、ごっそりと、西側に移転された。看板日付の昭和61年(1986)では、まだ庄和町なので、合併後に所轄を春日部市に修正したのだろう。大王寺の創立は新しいが、合祀前の各寺は古いらしい。その創立は不詳だ。歴史を伝える神社や寺の創立年代が不詳なのは戦乱等で古文書散逸・焼失によるのであろう。この地域も古い歴史をもつ。今日、古い地域ほど少子高齢化の問題を抱えている。この地区はどうだろうか、少し気になった。

